

丹後地域の農業士の活動紹介

「農業士」とは、地域農業のリーダーとして、優れた農業経営を行いつつ、農業研修生の受け入れに積極的な農業者や、地域の農業者から信頼され地域振興活動にも積極的な農業者で、市町村長からの推薦をいただき、京都府知事が認定された方々です。

丹後地域の農業士は、就農希望者の相談、研修の受け入れ、食べ物・農業の大切さを伝える食育、若手農業者の経営力向上を目的とした研修会の開催などの取組みを行っています。

是非一度、Facebookで「京都府丹後農業士会」を検索し、農業士活動を応援してください。



農業青年視察研修



農産物販売でのPR

新任・退任農業士のご紹介

新しく農業士に認定された方を紹介します。
どうぞよろしくお願いいたします。

【女性農業士】

的場 美智子さん(京丹後市久美浜町)

【青年農業士】

中江 一泰さん(京丹後市網野町)

今年度で農業士を退任される白数様、大変お世話になり、ありがとうございました。

今後も、地域農業の発展に御協力いただきますようお願いいたします。

【指導農業士】

白数 清一さん(与謝野町)

丹後地域農業応援隊 事業説明会のご案内

丹後地域の農業者の皆様を対象に、京都府の支援事業等を説明する「地域別事業説明会」を昨年度に引き続き開催しますので、ぜひご参加ください。

◇日時:平成31年3月6日(水) 13:30~

◇場所:丹後農業研究所

<お詫びと訂正>

平成30年8月に発行しました「丹後普及センターだより第28号」、裏表紙の問い合わせ先の病害虫防除所の電話番号で誤りがありました。正しくは下記のとおりです。

(誤) 0771-23-9513

(正) 0771-23-9512

訂正するとともにお詫びいたします。

※この広報誌は再生紙を使用しています。

～築いていこう！

男女共同参画～



TANGO 丹後普及センターだより

第29号

(平成31年2月発行)

〒627-8570

京都府京丹後市峰山町丹波855

京都府丹後広域振興局農林商工部

丹後農業改良普及センター

電話0772-62-4308

FAX0772-62-5894

丹後普及センター

検索

「京たngo梨」、台湾へ



台湾への出荷を待つ京たngo梨



台湾の百貨店での販促風景

新たな販路開拓による生産者の所得向上を目的に、JA京都では平成29年から京たngo梨「二十世紀」などの台湾への輸出の取組みを始めています。台湾へのナシ輸出では、検疫対象病害虫モモシクイガの混入は許されません。

普及センターでは、モモシクイガの防除の徹底を図るため、京都府病害虫防除所の協力を得て開発農地のナシ園3カ所にフェロモントラップを設置し、5月～11月の間モモシクイガの発生状況を調査し、発生状況に基づいた防除支援に取り組めました。

台湾輸出を始めてから2年、生産者の方々のご努力により台湾での輸入検査はすべてクリアしています。普及センターでは引き続き、輸出先のニーズに合わせた栽培技術の支援に取り組んでいきたいと考えています。



フェロモントラップによる調査



発生状況を伝える掲示板を設置

～知ろう、守ろう、考えよう、みんなの人権～



災害復旧に向けた伴走支援

今年は7月豪雨(7/5~8)、9月豪雨(9/6~10)、台風24号(9/29~10/1)と災害の多い年となり、中でも被害が大きかった7月豪雨では、宮津市岩戸雨量観測所において、これまでに経験したことの無い総雨量500mmを超える豪雨となりました。被災された皆様には、心よりお見舞い申し上げます。

京都府では、被災して使えなくなった農業用資材や器具の購入、機械の修繕にかかる経費を支援し、営農再開をお手伝いする「農業者等復旧応援事業」を実施し、事業申請にかかる相談会等も合わせて行いました。今回は、この事業の活用事例を紹介させていただきます。

事例1



宮津市
A氏

7月豪雨において、川からの浸水によりA氏の農作業場にあったコンバイン、糶摺り機、乾燥機等の農業機械が故障しました。

A氏は8月に開催された事業相談会に参加し、申請書の記入の仕方、営農再開にむけた相談をしました。事業を活用して機械を修理し、水稻の秋作業である収穫・乾燥・調製に間に合わせる事ができました。



宮津市北部会場での相談(8月23日)

事例2



京丹後市
法人B

法人Bは、昨年度も台風18号、21号で被災しましたが、今回も7月豪雨により、川が増水し、みず菜のハウスが浸水してしまいました。みず菜が出荷できなくなり、ハウスに付随するポンプや背負式動力噴霧器も故障してしまいました。

今回、本事業を活用することにより、法人Bはこれらの機械の修繕や買い替え、みず菜種子の購入を行い、いち早く蒔き直しをして、営農を再開することができました。



7月豪雨で被害を受けたみず菜栽培ハウス

メール会員
募集中!!

おいしいお米づくりのヒントをメールでお知らせします!

丹後米改良協会では、おいしい丹後米づくりのための管理のポイントや病害虫の発生・気象災害対策情報を、メールでお知らせしています。(無料。通信料は別途必要)

施肥や水管理のほか、稲刈り時期や乾燥・調製、保管に至るまで、細心の注意を払っておいしいお米に育てましょう。

- ①メールの利用可能な、携帯電話やパソコンを用意します。
- ②次のあて先に、空メールを送ってください(右のQRコードでも可)

tangomai@mamaill.jp

- ③「ご入会ありがとうございました」の返信メールが届いたら、登録成功です。

登録方法がわからない場合は、丹後農業改良普及センターか、最寄りのJAに相談してください。



~ 守りましょう! 農薬の適正使用であなたの農業 ~



異常気象に負けない栽培技術 畑作

技術1

太陽熱利用土壤消毒



近年は集中豪雨などの影響で、秋作の契約作物ではほ場準備ができず、計画どおりに出荷できないことが問題となっています。

そこで、丹後地域で以前から加工契約のカブ、ダイコン栽培で実施しており、最近加工契約キャベツ栽培でも取組まれている「太陽熱利用土壤消毒」を紹介します。

太陽熱利用土壤消毒は、施肥やうね立てを本来のほ場準備時期より早く、天候の良い時期に行うことにより、通常ほ場準備時期に降雨が続く年であっても、適期のは種・定植が可能となります。また、土壌中の雑草の種子や病害虫の発生を減少させる効果が期待できます。



太陽熱利用土壤消毒のポイント

- ①あらかじめ施肥、うね立てをしておく。
- ②土壌が十分な水分状態で、透明マルチを土壌表面に密着させるように被覆する。
- ③高温状態を維持できる時期(梅雨明けから8月中下旬頃)に、少なくとも20日間以上被覆する。
- ④マルチを剥いだ後、は種・定植作業で土をできるだけ動かさない。



▲太陽熱利用土壤消毒の様子

技術2

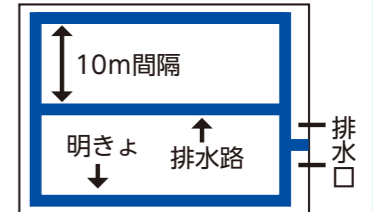
リターンデッチャによる排水管理

近年は数日間に100mm以上の多量の雨が降ることが多くなり、水田転作畑では、うね立てなどのほ場準備を適期に行うことが困難となっています。そのために事前の排水対策が重要です。

栽培の1ヶ月程度前の好天の時期に、下図のように、ほ場の周囲に額縁明きよを、ほ場内にも10mおきに排水路を掘って準備しておくこと、大雨の後でも、ほ場からの排水がスムーズとなり、土壌が乾きやすく、ほ場準備が行いやすくなります。排水管理の一例としてリターンデッチャによる溝掘りを紹介します。

リターンデッチャはロータリー型の溝掘り機で、20~30馬力のトラクターでも作業可能です。後進しても溝を掘る機能があり、わずかな手作業でほ場の四隅の溝を連結し、排水口に簡単につなげることができます。

<明きよ設置のイメージ>



明きよのポイント

- ①ほ場の4隅と排水路と明きよ同士を排水口へ確実に連結し、きっちり水が流れるようにする。
- ②明きよ・排水路は18cm~25cm程度の深さで、取水口側を浅く、排水口側を深く掘ります。
- ③ときどき見回りをして、滞水のチェック、崩れている場所の修復を行います。



▲リターンデッチャで掘られた溝

~環境にやさしい農業は土づくりから~